

ひろば大代

NO.400

大代まちづくり
センター

H24.11.23

Ⅱ 400号特集Ⅱ 400号発行にあたって



まちづくりセンター長

畑 誠

” 継続は力なり ” 「ひろば大代」 400号発行の節目は、やはりこの言葉しか見つかりません。

昭和45年11月、第1号は「つどい」として記念すべき歩みを始め、不定期に発行されておりました。昭和55年6月からは「ひろば大代」として毎月発行の取り組みを行い、これまで32年間絶えることなく続いているところです。発行の趣旨をみると、町内で起こった身近な情報を知らせることが町民の間のパイプ役を果たし、公民館活動の一助になると取り組みが始まったそうです。

市内の他のまちづくりセンターの状況をみても、毎月の発行を続けているのは大代まちづくりセンターだけこの話も聞きます。継続する難しさを改めて感じました。

歴代のある編集委員さんの話によると、「掲載する情報がなくて、毎月発行を止めようとした時もあったが、紙面1枚でも毎月発行にこだわろう」との結論になったとか。苦勞された軌跡が垣間見えるようなエピソードです。

今は、テレビやインターネットも普及し、多くの方も一瞬に世界中の情報を知ることが出来ます。しかし、町内の細かな情報となると、「ひろば大代」のような「紙情報」に頼っているのがやはり現実です。

大代まちづくりセンターにとって、「ひろば大代」の発行は、大切な事業の柱として取り組んでおり、今後も毎月発行にこだわりながら、親しみやすい情報誌を目指したいと考えます。町民の皆さまの温かいご意見をお寄せください。

これまで情報や投稿いただいた皆様をはじめ、歴代の公民館長、まちづく

りセンター長、職員の方々、そして編集委員の皆さまに改めて感謝申し上げます。

「ひろば大代」

400号記念

お祝いのつどい



大田市長 竹腰創一

「ひろば大代」の発行400号、誠におめでとうございます。

三十年以上の長きにわたり大代町の情報発信と、地域の皆様への情報提供を続けてこられました。編集委員の皆様のご長年のご尽力に対し、心より敬意を表する次第です。

さて、市の最重要施策の一つであります市民の皆様と行政との「協働」によるまちづくりにつきましても、今年から自治会を代表する皆様にもまちづくり委員会へ参画していただくなど、「地域づくり」と「ひとづくり」を一体的に推進していくことといたしております。

まちづくりには、それぞれの地域資源や特色を活かし、誰もが住んで良か

ったと思えるまちにしていくなことが求められています。そのためには、地域の皆さんと行政が情報の共有を図り連携を深めていくことが大切であり、身近な広報誌の果たす役割はますます大ききなものとなっています。

この400号を契機に、ひろば大代がますます発展・充実され、今後も500号、600号を目指し、末永く地域の皆様に愛される広報誌でありますようご祈念申し上げます、お祝いのことばといたします。

「ひろば大代」

400号発行

おめでとうございます



連合自治会会長 田中久好

昭和45年（1970年）11月「つどい」第1号発行以来42年間、編集に携わって来られた関係者の方々のご努力に改めて感謝致しますとともに今後とも第500号、第600号と末長く続くことを願っております。

先日「回天烈士並びに回天搭載戦没潜水艦乗員追悼式」の案内をいただいた

て、88歳の母を連れて行ってきました。山口県周南市大津島回天碑前で厳かに行われ、回天顕彰会会長のお言葉で、「回天特攻隊員が出撃し、国家のために命をささげられたことを忘れてはならない。これは、後世に語り継ぐべき日本の歴史的遺産である」と述べられました。

戦後生まれの私ですが、当時の時代背景に翻弄され、国や家族を守るために命をも捧げ、華々しく散っていった20歳前後の若者の気持ちを思うに、感慨深い思いをさせられました。来年還暦を迎える私の最近の出来事でした。

「ひろば大代」への

感謝と雑感

東京石見高山会会長 松本健一



「ひろば大代」のひろばの意は、雄大な大江高山、厚い人情、素朴な人柄等々、ふるさと大代を共有する者にとつて、とても嬉しい響きの名称と思います。発刊四百号おめでとうございます。編集、発行事業に携われた方々の

御苦労は、いかばかりかと思えます。深く感謝申し上げます。

現代の世の中、電話は勿論、IT時代の。騒々しい大都会の中でふるさとからの手作りのニュースペーパーは、なよりの癒しのほかありません。

私の子供の頃の大代は、情報らしきものは皆無で、ひと山隔てた広島に原爆が落とされたことが判ったのも何日か経ってからでした。

世の中で怖いものは諺では地震、雷、火事、親父が通例でしたが、私的には親父より怖いものは学校の先生（勉強が嫌いで成績が悪かったから）浄土寺の御院家さん

（近所だった故、いたずらをするときよく小言を言われていた）
そして駐在所の巡査さん

（当時の進駐軍と同じで悪い事をしていなくても制服に弱かった）

そんな村で月に一、二度行なわれる浄土寺や正法寺での日曜学校で学校でも教わらない行儀を教わったり、又、人として子供としての基本的なこと、特に悪い事をしないで一番良い事は「親孝行が第一」とお釈迦様からの教

えなのか、当時の浄土寺の御院家さん、正法寺の方丈さんから耳にタコが出来るほど教わったことを覚えております。今思えば、大代の子供達は幸せだったと思います。そんな素朴な平和な村だったのが我がふるさと大代です。そんな素朴なふるさとのニュースペーパーが「ひろば大代」です。

「継続は力なり」と言われる程大変なことですが、四百号は通過点として、大代が在る限り、末永く続けて頂きたいをお願いを致します。

「抹茶と私」

関西高山会会長

山根金造



私が最初に薄茶をいただいたのは、大家の椿の婦人会で抹茶のお稽古された時期があったのか、母が家で点ててくれた薄茶でした。

それは私が小学校高学年の頃であったと記憶しています。

次に抹茶を頂いたのは江津工業高校に入学し、江津の普濟寺（曹洞宗）に下宿させていただいた時でした。私は

高校に入学し、柔道部に入部しました。

普濟寺の嘉戸宏文老師がたっぷりしたお茶碗に薄茶を点て「山根君、これを飲んだら明日の試合は大丈夫、いつもの実力が発揮できるからな」と言っ

て飲ませて下さいました。普濟寺では抹茶だけでなく煎茶や玉露もおいしく入れてもらい、お茶の味を教えて頂きました。

その時、社会人になって余裕ができたらいつかお茶を習い、自分で美味しく抹茶を点てられるような大人になりたいと思いました。

昭和四十七年に巖松堂書店を開業し二年経った時、茶道裏千家伊原宗静先生に入門し、三十八年が過ぎようとしています。六年前には裏千家今日庵より山根宗金という茶名をいただき、茶道裏千家淡交会明石支部の顧問を現任つとめさせて頂いています。

茶道は日本を代表する総合芸術です。お茶室、茶庭、茶花、お茶碗、お茶入れ、お仕服、おなつめ、お茶灼、掛け軸、お茶事、お道具のあつかいや礼儀作法等、日本の自然と暮らしすべてを

網羅したものです。

お茶の文化があるお陰で、日本には中国にもない油滴天目茶碗や、韓国にもない大井戸茶碗が日本の国宝として伝えられてきました。茶道にはお道具を大切に扱う伝統があり、お茶碗やお茶入れをお仕服に入れ、さらに二重、三重に箱に入れて大事に次世代に伝えたいお陰で、千年前の中国の宋時代のお茶碗が地震にも耐えて、現在大名物、中興名物として日本にあります。

島根県ゆかりの松江の殿様、松平不味候旧蔵のお茶碗が日本の国宝として大切に伝えられてきました。

私は縁あって、禅宗の普濟寺に下宿し嘉戸宏文老師に、お茶の美味しさを教えていただいたお陰で、茶道を学び私の人生を豊かにしてくれたと大いに感謝しております。

「ひろば大代」四〇〇号記念にお茶のすばらしさを投稿させて頂きます。

絆を大切にしたい

情報紙「ひろば」に



元館長 横手新治郎

大代町の情報誌「ひろば」が、予定通り1回の欠号、遅延もなく8年4ヶ月を経て、見事に400号の大台を迎えましたのは、編集に携われた関係者や原稿依頼に快く応えられた皆さんがあったからだと敬意を表します。私は8年前の3月、300号発行を前に準備をしたまま退任いたしましたので、ことのほか喜びに耐えられません。

今、世の中は情報化時代です。先日はパソコンのソフト「ウインドーズ8」が発売されたと言うニュースが大きく報道されましたが、時代遅れの者には、これが今後どのように世の中を変えていくのか検討がつきませんし、その仕組みも分かりにくいところですよ。手のひらに乗る携帯電話や情報を受信、発信できるスマートフォンを若い方の多くが使っているようですし、高齢者でも使えるような仕組みになり便利になってきました。

このような世情の中で、大代町には大きな変化が起こっています。市政改革により大代公民館は、高山公民館の管轄となり、広い区域での活動をする



ことで、より高度な生涯学習活動ができるようにと変革され、これまでの公民館はまちづくりセンターへと衣替えして活動することになりました。

大代小学校も今年3月をもって廃校となり、高山小学校へと統合され、広い校庭と体育館、教室だけが残り寂しく、また不便になりました。過疎の町へと大きな地すべりが続くことばかりですが、心までが過疎にならないように踏ん張ることが求められます。

幸い大代町には、先人が残された素晴らしい伝統や豊かな自然などがたくさん残っています。これらを大切に守り、生かす活動を情報源としてお伝えすることが強く求められています。それが地域の情報誌「ひろば大代」が果たす大きな役目だと思います。

情報の先端であるインターネットのホームページに大代高山会のページがあり、「ひろば大代」発行と同時にこのページに載せられ、大代を離れておられる方にも即刻見ることが出来ます。町内の私たちは紙面で、写真も白黒で見えにくい時もありますが、ホームページではカラーで鮮明です。このペー

ジを見て、これまで縁のなかつた人達にも知ってもらい訪ねてほしいものです。

そして、「ひろば大代」を、大代と縁のある方々との強い「絆」として、次の大台500号を目指して継続発行されることを切望いたします。

住民の協力と「ひろば大代」編集に携われる皆さんの、ますますのご健闘をお祈りして、400号達成のお祝いの言葉といたします。

大代町の 井戸平左衛門

頌徳碑



井戸平左衛門

大代高山会会長 佐藤 哲朗

「ひろば大代」四百号おめでとうございます。今日まで途切れることなく発行を続けられた、諸先輩に深く敬意を表します。

市内では世界遺産登録五周年行事が各地で行われています。先般、井戸平左衛門の頌徳碑について学ぶ機会がありましたので紙面を借りて紹介します。井戸平左衛門正明は、享保十六年(1

731年)第十九代大森代官に着任(笠岡代官を兼務)。享保の大飢饉(1732年)による領内の窮状を目的の当たりにし、領民たちを救うため、幕府の許可を待たず年貢の減免、年貢米の放出、官金や私財の投入などを断行しました。

また、同十七年(1732年)、大森の榮泉寺で、薩摩国の僧である泰永からサツマイモ(甘藷)が救荒作として適しているという話を聞き、種芋を移入。邇摩郡福光村(現・大田市温泉津町福光)の松浦屋与兵衛方で収穫に成功。その後、サツマイモは石見地方を中心に救荒作物として栽培されるようになり、その後の天明の大飢饉(1782年～1787年)・天保の大飢饉(1833年～1839年)では多くの領民を救いました。

この功績により、井戸平左衛門は領民たちから「芋代官」と称えられ、今日まで顕彰されるに至っています。

享保十八年(1733年)備中笠岡の陣屋で死去。その死因は、救荒対策の激務から過労により病死したとする説と、幕府の許可を待たず年貢米の放出などを断行したことに対する責任か

ら切腹したとする説の二つがあります。墓所は威徳寺(岡山県笠岡市)。井戸平左衛門の死後、石見地方を中心に頌徳碑「泰雲院殿義岳忠居士」が建てられ、中国地方に四六三基、大田市内に八四基、大代町にも七基存在することが確認されています。

写真は代官に存在する井戸平左衛門正明公の頌徳碑です。



町内の次の七地区に頌徳碑があります。

()内に写真の番号を入れて下さい。
飯谷()上市()八反田()椿()
山田()川上()四日市()
正解は次回十二月号に掲載します。

四季に想う

寿会会長

日向 良



今年の七月八月には連日燃えるような暑さで、各地で熱中症による犠牲者が続出したが、漸く一段落し、農繁期も終わりに近づいている昨今です。

さて日本人は四季の移ろいには大変敏感であり、春には花を愛で、秋には収穫のよろこびとこれから迎える冬への緊張感があり、どちらも甲乙つけがたいと思う。つまり春には春の、秋には秋の風情があるからです。

過去著名人でも春を支持し好む人、又秋に肩入れて指示する人とがあり、両者共日本人の美意識の表れだと思ふ。ところで大代では冬はかなり厳しく春の到来を待ち、秋には冬への心のひきしめを感じながら日々を生活しております。さて皆さんはどちらを支持しますか。

ところで、先日の新聞によれば日本の最高学府である東京大学では秋入学に切り替えるような記事が載っていたが広島大学も賛成するような意見が誌上にて発表されていた。

日本人はすべて春を基準にしていたので少々おかしい気分である。

欧米では古くから秋の入学だのと、さて皆さんどちらを支持しますか。

「つどい」の思い

大代婦人会

会長 佐藤京子



「ひろば大代」四百号、心よりお祝い申し上げます。歴代編集委員の皆様のご努力の賜物と深く敬意を表します。先月の「ひろば大代」に第一号の「つどい」の原田秀興館長の挨拶が掲載されていきました。

大代町では今どんな行事があるか？ どのような動き、活動をしているか。社会教育、家庭教育、健康増進等々、町民間のパイプの役目を果たし公民館活動の一助ともなれかし。

昭和六十三年七月号には九州在中の

方が書かれています。大正十四年三月小学校を卒業すると同時に右も左もわからない世間知らずでふる里を後にしました。温泉津駅まで見送ってくれたお袋が流す涙に黒松駅ぐらいまでは私も泣いたことを、七十七歳の今日まで忘れる事は出来ません。

同じく九月号には昭和二十年食糧難、生活難、物資はたかたかた悉く不足し泥沼の様な戦後を堪え抜き、子弟を育てて来られた皆さん、改めて「敬老の日おめでとうございます」を申し上げます。として、毎月大田保健所よりの健康への一言。又、大代の子供達の輝かしい卓球での快挙の数々の掲載。

最後に館長は結んでおられます。「つどい」は二葉を出したばかりです。あなたの温かい育成の水を待っていますと。四百号を迎えて、改めて考えさせて頂いた四百号記念でした。

400号にむかひ

あすなる句会

椿 柿丸寿枝



秋です。やっとです。そして涼しい

間を飛び越して一気に寒い季節が到来したような日々。早々に炬燵こたつを出す始末です。そんな時「ひろば大代」が400号と聞きました。本当におめでとうございます。

一口に400号と言いますがその間公民館長、まちづくりセンター長、編集委員と歴代の皆様方の多大なお力があつてこそ、この凄い数字に到達出来た事心より敬意を表します。

「ひろば大代」400号と知り、第1号に興味を覚えまちづくりセンターで見せて頂きました。分厚い綴りです。昭和四十五年十一月十五日発行、名称は「つどい」と名付けられ、青色のインクでガリ板刷り、用紙も変色して歴史を感じました。

当時の公民館長は、今は亡き原田秀興様、婦人会長も亡くなられた尾崎三枝子様でした。とても懐かしく拝見しながら頁を繙いていたら驚きました。有りました。私達あすなる会員の俳句が掲載されていたのです。第1号と思うと感激も一入でした。

1号から400号迄、私達の拙い俳句を載せて頂き、町民の皆様方に見て

頂けますこと感謝の気持ちで一杯です。「ひろば大代」が永久に続きます様、そして、あすなる句会も”継続は力なり”をモットーにして、一步一步前に進んでいけます様祈念しております。本当に有難うございます。今後共宜しくお願い申し上げます。

虹の大江高山



輝いて 大江高山

大田市 原田萬里

「ひろば大代」発行4百号、記録を残してこられた関係者に深い感謝の念を捧げます。

九月初め大家 鉦昭人氏が来訪され「これは大江高山の水で作った新米だけ、食べてみちやんさいや」とずしりと重い米袋を頂きました。ふる里の香りと友情の味を早速食味致しました。

大江高山は故郷の象徴であり、里に水を潤し先人の命を養った址が、八反

田遺跡として発掘されたことは最近のことでした。

大江高山周辺の湧水を水源とする幾つかの湧水池の中でも、最大級の水源は飯谷の水源池ではないでしょうか。清水がコンコンと湧き出して、小指大の小石が常に吹き上げ、そこに木漏れ日が注ぐ様は水の霊が籠っている様で子供心に近寄れない思いがしたものです。この地に生活をしていた先祖は水を神として崇め、毎年七月一日に水神祭りを厳かに行き、若者が池に入り水換えの行事をしていた姿が今も眼に焼きついていきます。

水上の上野氏は其の下に山葵代を拓いておられました。母は周辺の湧水を利用して、山葵代を六か所も作り、大坂市場へ個人で出荷していました。

当時は、水車小屋が国道より上に七か所もありました。各家には竹の節を抜いた樋で水を掛け流しで活用していた時代です。

父と働いた想い出は冬の白炭作りです。原木が末だ真つ赤な火の塊の時に窯から引き出すのですから汗が流れ、大変でした。

また父は滝の岩盤に二六〇〇年と刻み、足の滑り止めとしていました。遠き昔の忘れ難い思い出です。

現在のふる里の人々も、種々大江高山を尊厳してはその輝きを電波に載せて世界へ発信するまでに発展させられた功績は、後世に残る一大事業である事を記して私のペンを納めます。合掌

高山の里にすてきな

音楽が流れた文化祭

まちづくりセンター



大代町文化祭が11月18日(日)暖かいお天気に恵まれ、盛大に開催され、大勢の皆さまに訪れていただきました。今回は小学校が閉校した初めての年で、各部所には何もなく、すべて持ち込みで準備をしなければならぬ状態で、各団体の方々には大変なご苦労をいただき、有難うございました。

午後からのアトラクションは可愛い幼稚園児の歌と踊り、統合後の高山小学校全校児童による歌と劇、そして第三中学校吹奏楽部の演奏と、世界で活



田中先生と子どもたちのコラボ

躍しておられるオペラ歌手の田中公道氏による公演と続き、素晴らしい歌声が山里に響いて、最高の文化祭でした。またお忙しい中、公演頂いた田中先生と子どもたちとのコラボも実現し、子どもたちには一生忘れられない素晴らしい体験にもなりました。有難うございました。

また文化祭にご協力頂きました関係者の方々、有難うございました。



幼稚園児



第三中学吹奏楽部



田中公道氏



神楽面



俳句



農産物などの展示物

12月行事予定



- *****
- ▼1日(土) 社協ボランティア会議
午後7時〜まちセンにて
- ▼2日(日) 婦人会支部長会
- ▼4日(火) お正月用しめ縄作り
午前9時〜まちセンにて
- ▼7日(金) クリスマス会
- ▼9日(日) 福祉弁当
- ▼18日(火) さくらんぼ教室
- ▼23日(日) 連合自治会
- *****

お知らせ

- ◎大代高山会より
関西高山会 田中公道様から
高山会へご厚志を頂きました。有難うございました。
- ◎大代地区社協より
上市 木村亮介様から
香典返しにかえご厚志を頂きました。
厚くお礼申し上げます。

編集後記

400号まで発行して42年間、今まで関わって来られた皆様方に感謝です。これからもよろしくお願い致します。